

令和7年度第8回東大和市社会教育委員会議要録

1 会議日時

令和7年12月16日（火）午前10時から11時40分まで

2 会議場所

市役所会議棟第6会議室

3 出席者

（1）社会教育委員（7名）

池田議長、外池副議長、大島委員、橋本委員、杉本委員、森脇委員、半田委員

（2）事務局（3名）

廣瀬生涯学習課長、神山生涯学習課文化生涯学習担当係長、荻沢生涯学習課主事

4 欠席者（2名）

藤井委員、才郷委員

5 会議の公開・非公開

公開

6 傍聴者

0名

7 議題

（1）研究テーマについて

（2）その他

8 会議資料

各委員から提出のあった提言原稿

9 議事内容

（1）研究テーマについて

①「一人暮らし高齢者に関わる課題」

副議長から原稿の説明があった。

【要旨】

原稿2ページ目（3）の①について、要点を箇条書きに修正した。

【意見】

特になし。

②「外国人住民の防災防犯について」

委員から原稿の説明があった。

【要旨】

- ・である調に統一した。
- ・日本語教室の実施場所について追記した。
- ・提言について、外国人住民が困らなくなるだけでなく、地域住民も困らない環境づくりが必要という趣旨でまとめた。先日出席した都市社連協交流大会・研修会の講演において、熊本地震の際に苦情が全く発生しなかった避難所があったとの事例紹介があった。また、ミニコミュニティについて、外国人住民にも作ってもらいたいと考えている。

【意見】

- ・委員
先日「子ども国際体験 DAY！」が開催され、主に子どもが国際交流する良い機会になった。
- ・委員
提言に取り入れたいと考える。ワークショップを実施した外国人は市内の方が多いのか。
- ・委員
市内在住の外国人が多い。
- ・委員
近所で若いベトナム人8人（建築業）が寝泊まりしている家があるという情報があり、近隣住民は心配していた。そこで、社長に相談し、自治会主導で懇談会を開催することで、丁寧に説明を受けることができた。ここは、一軒家（元寿司屋）を改造し、1人3畳で区切ってスペースを作り、就労ベトナム人の宿泊所として整備しているとのことであった。社長に相談したことで、顔が見える関係になることができ、自治会として良かった。外国人と地域住民が共存できるよう、自治会側からも動く必要があると感じた。
- ・委員
外国籍の児童・生徒が同じクラスにいるということは、外国人がいる環境に慣れることに役立つ良い経験となる。日本の子どもたちには積極的に国際交流や身近な外国人との親交を深めてほしい。

- ・議長
第2ブロック研修会で幹事市の国分寺市による発表の中で、ある自治会内で消防車が入れない道があることから、防災への意識が高く住民のミニコミュニティが発達したという紹介があった。東大和市でも、ゲリラ豪雨等の際に道路冠水が発生することが多い南部地域の方が注意喚起のためにSNSで積極的に情報発信している。

③「身近な安全が守られた誰もが幸せになれる地域づくりを目指して」

委員から原稿の説明があった。

【要旨】

- ・火災件数、死者数について強調したいため太字とした。
- ・2ページ目の特殊電話詐欺について、表とした。（表の縦線は事務局で修正する。）
- ・チラシのサンプルについては提言書に盛り込むかについて事務局で判断してほしい。

【意見】

・委員

マンションやアパート等の集合住宅ではミニコミュニティを形成することは難しいと考えていたが、管理会社や大家を活用することで、ミニ連絡網等を作成できるのではないかと考えた。

・委員

大きなマンションでは、フロアごとで良いのでミニコミュニティができれば良いと考える。提言に集合住宅の場合を入れていなかったため、盛り込むべきか考えたい。

・委員

集合住宅に居住しているが、必要な連絡は管理会社から通知が来る（ガス工事やゴミ捨て等）。また、管理組合には理事会があり組織化されている。

・委員

組織化されていることに越したことはないが、既存の組織が機能していない場合やそもそも無い場合は組織に頼ることなく、自分たちの判断でミニコミュニティを作っていってほしいと考える。

・委員

あえて言うならば、「緩い組織」ということか。気軽に意見交換や注意事項を共有することができる座談会等に潜在的なニーズがあるのではないかと考える。自治会は知り合いを増やすための有効な場であると考えている。

・委員

一番大事なことは、負担にならないで活動ができるかである。

・委員

活発に自治会で活動している方は、定年退職をした方が多い。退職してから地域に溶け込めないという課題があるので、そうした方に地域で活躍してもらうきっかけを作ることが重要である。

・委員

スポーツ協会の役員は定年退職後の方が多く、高齢化が進んでいる。現役世代に仕事と両立して無理をかけない範囲で役員を担ってもらうための仕組みを作りたい。世代が途切れる組織は危ないと考えている。

・委員

文化協会も高齢化が課題である。

・議長

マンションでは、管理室からの情報が全戸に一斉通知される等、連絡ツールは充実している。しかし、連絡ツールが充実しているからこそ、ますます近所付き合いがなくなっている。

・委員

自治会内では、若い世代に「使われる」役割になることが大事だと考える。若い方が活躍してほしい。

・委員

ミニコミュニティで連絡するとき、誰が連絡を取るのか。どうミニコミュニティを作り情報を収集して周知していくのか。

・委員

誰かが統制して情報を末端まで下ろしていく形式があるがそうではなく、ミニコミュニティは、井戸端会議で何が必要か意見交換をし、そこで出たアイデアを拡げてい

くという横展開方式である（アメーバ式）。

- ・委員

知っている人とでしか井戸端会議はできないから、やはりまず始めは顔見知りになることが大事である。

- ・議長

実はSNSでは横のつながりができている。若者世代は、例えば大学入学式時点で既に知り合いができている。若い人なりのミニコミュニティは機能している。

- ④「はじめに」「研究テーマの方向性：１．地域住民・学校・自治会等との連携を通じた“身近な安全”の確保、２．地域主体による共生型イベントの事例、３．ペット防災の視点を取り入れた地域イベントの可能性」及び「まとめ」
議長から原稿の説明があった。

【要旨】

- ・「はじめに」のボリュームについては全体のバランスを見て事務局と調整していく。
- ・ペット防災について、茅ヶ崎の市民団体の例を挙げて説明する。市民主導による防災訓練を実施することで顔見知り（犬友）ができる。珠洲市（石川県の能登半島先端の自治体）では、同行避難を実現しているが、当市とは自治体規模が異なる。水槽を持って避難してきた人もいる等、有事の際は様々なペットを連れてくる人がいる点に留意する必要がある。
- ・「まとめ」については、提言全体を見て議長が作成するが、事務局と調整する。
- ・写真については、次回会議までに事務局に提出する（茅ヶ崎市、高架下の夜市等）

【意見】

- ・特になし。

（２）その他

- ・事務局

- ①第５６回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について（報告）
１１月２０日（木）、池田議長、杉本委員、森脇委員及び事務局（荻沢）で参加した。
- ②令和７年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第２ブロック研修会について（報告）
１１月２９日（金）、池田議長、外池副議長、杉本委員、半田委員、森脇委員及び事務局（神山・荻沢）で参加した。
- ③令和７年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会（報告）
１２月１３日（土）、外池副議長、森脇委員及び事務局（神山）で参加した。

- ・委員

都市社連協第２ブロック研修会では、幹事市である国分寺市の事例発表において、子どもたちの居場所である「プレイステーション」の紹介があり、小金井市でも同様の施設があるとのことであった。他自治体の社会教育における様々な取組を知ることができた。

・まとめ（副議長）

次回までに事務局に提言原稿の集約をお願いしたい。

都市社連協交流大会・研修会に参加し、会長の基調講演を受け感じたことは、社会教育委員に求められていることは、「寛容であり、ゆるく、気長に、課題は様々である（徐々に小さいことから拡大していく（学校教育は計画に基づいて進める。）」）。現議長になって初めての提言となるが、現議長の特長が反映された提言になれば良いと考える。

・議長

次回会議は、令和8年1月20日（火）午前10時からで、場所は市役所会議棟第6会議室である。

＜次回会議に向けて＞

- ①原稿に修正がある委員は修正後の原稿を事務局に提出していただきたい。
- ②事務局において各委員の原稿を統合し、次回会議資料として提示する。

以上